

札幌市が目指す国際都市像

札幌市の現状
 ○外国人登録者数は約9,500人。総人口に対する外国人割合は0.5%と政令指定都市の中で最も低い。
 ○国際的な文化・スポーツイベントを実施しているが、オリンピック開催時の知名度からは後退。
 ○多文化共生に向けた経験の不足、観光面での受入環境の脆弱さ、経済面での海外展開の不足が課題。

「札幌市国際化推進プラン」の実績と課題
 ○姉妹都市交流や冬の都市市長会等を通じてネットワークを構築し、世界の都市と活発に交流。
 ○積雪寒冷など札幌の技術を世界に伝え、国際協力に貢献。
 ○課題として、経済分野での国際化、外国人のまちづくりへの参加の確保、などがある。

札幌が「国際都市」を目指す意義

- ①世界を知ること、札幌を知る。
- ②世界で札幌の強みや資源を活かし、人・モノ・情報・資金を取り込み元気な経済を生み出す。
- ③多様性のある社会を実現して新しい価値を生み出す。

⇒市民が札幌に誇りを持ち、まちが元気になる

- ・国内市場の縮小均衡が進む中、国内だけを見た経済政策では展望は見えてこない。グローバル化は避けることのできない外部状況である。
- ・札幌は多くの転入者を受け入れながら発展を続けた街。グローバル化の中、多様な人・文化を受け入れることのできる気質は強みであり、札幌にとって自然な取組。
- ・様々な人が札幌を訪れることは、観光をはじめとする札幌経済全体の活性化につながる。
- ・国際的な人材を獲得し、定着してもらうことにより、多様な価値観が交わり新たな価値を創りだす源となる。
- ・海外からの来訪者にとって過ごしやすい、札幌に住む外国人にとって暮らしやすく働きやすいまちづくりを進めることは、札幌の国際的な魅力向上につながる。

札幌の目指す国際都市像 **世界を味方にして新たな価値を生み出すまち さっぽろ**

世界の人知っているまち

- ・世界の人々が札幌を知っており、行ってみたいと思うまち
- ・「札幌ライフスタイル」がブランドイメージとして認知されるまち
- ・北海道のブランドイメージを取り込みながら、札幌の魅力の相乗効果でPRするまち

世界の人々が訪れたいまち

- ・札幌の認知度向上を観光客の増加、経済活性につなげるまち
- ・個人旅行で来た人が、繰り返し楽しめる常に新しい発見のあるまち
- ・ホスピタリティの向上で、来訪者に高い満足感を与え、翻って高い対価をえることのできるまち

多様な人が暮らすまち

- ・多様な文化的背景を持つ人が住みやすく、住んでも違和感を覚えないまち
- ・外国人がアクセスしやすい窓口があるまち
- ・各国のコミュニティで必要な情報が逐次発信されているまち
- ・多文化共生社会*を基礎とした「札幌ライフスタイル」を確立できるまち

創造的で活力があふれるまち

- ・国対国の関係を越えて、個人、企業、地域が海外と直接つながり、活動することができるまち
- ・新たな事業を国内外に発信し、まちの活力につなげられるまち
- ・多様な文化的背景を持つ人が創造力を活かして働き、働きがいのある環境があるまち
- ・多様な価値観の人が、互いに意見を出し合い、新しい事業を生み出せるまち

行動目標

市民一人一人が世界を知り、札幌をよく知る

- ・世界の様々な歴史、文化、価値観、行動様式について知り、札幌の世界での相対的な位置、価値について認識する。

グローバルな視点で考え、行動する市民

- ・自然が豊富な都市環境、雪、雪まつり、PMF、YOSAKOI、コンテナ産業など、世界に誇れる札幌の良さをよく知っている市民
- ・訪れた人に札幌の良さを伝えられるホスピタリティのあふれる市民
- ・海外からの来訪者に道を尋ねられた時に、自然と対応できる市民
- ・確立された「札幌ライフスタイル」を、一人一人がPRできる市民
- ・自然体で多文化を受け入れることのできる市民

*多文化共生:「国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的違いを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていくこと」(「多文化共生の推進に関する研究会報告書」2006年3月総務省)